

小児看護学入門

～医療処置を受ける子どもへの看護～

2019. 8.8:

県立広島大学三原キャンパス

オープンキャンパス

担当: 松森直美

看護学科の カリキュラム 構成図

生涯にわたり学習し成長し続ける資質を育む

卒業研究

<統合・総合科目>

看護管理論 看護倫理 災害看護 在宅看護論 統合実習 在宅看護実習

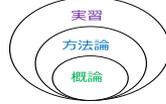
<選択科目>

クリティカルケア看護論 認知症看護論
家族看護論 看護教育論 終末期看護論 家族保健指導論

【保健師課程】

公衆衛生看護活動論Ⅳ 公衆衛生看護実習Ⅰ・Ⅱ
公衆衛生看護活動論Ⅰ 公衆衛生看護活動論Ⅱ・Ⅲ

精神看護学



地域看護学・保健師過程



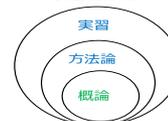
成人看護学



老年看護学



母性看護学

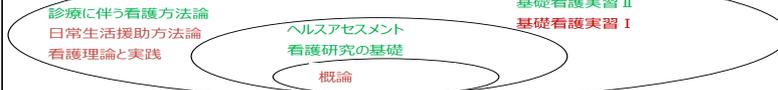


2年生
後期～

小児看護学



基礎看護学



<専門領域理解の基礎となる科目> (必修のみ)

病態生理学 薬理学 公衆衛生学 老年医学 精神医学 小児科学 医療安全学 統計処理演習
解剖学(看護特論) 微生物学 病理学 臨床栄養学 関係法規

<保健医療福祉を発展させる科目>

チーム医療福祉演習
医療福祉システム論 国際保健福祉活動論 保健医療福祉行政論 ケアマネジメント
リハビリテーション概論 チーム医療福祉論 地域リハビリテーション論 家族支援論

<人間と社会生活の理解に関する科目>

地域社会と言語 生活環境科学 生命倫理学 福祉と社会問題 中枢神経機能学
解剖学概論 生理学概論 生化学 人間発達学 発達心理学 人間工学
ジェンダー論 家族社会学 対人関係論

豊かな
教養

チーム医療福祉論・チーム医療福祉演習

他職種と連携において自ら進んで
看護の役割を果たすことができ
生涯にわたり学習し成長し続ける
看護師・保健師

理論と実践を統合し
応用できる力

看護の専門的知識 技術 態度を
身につけ 高度な看護を実践する力

人間の発達や生活行動
健康や健康障害を理解する力

主体性とチーム医療を推進する力

人々の総合的な理解と
全人的な対応力

<<豊かな教養を育む>>

人文系：哲学 倫理学
社会系：法学 日本国憲法
自然系：統計学

<<学びの基礎を育む>>

情報リテラシー キャリアデベロップメント
大学基礎セミナー 体育実技
英語 英語表現 検定英語 資格英語
中国語 ドイツ語

《看護が育成する力》

開講時期 表記
1年次：赤
2年次：緑
3年次：青
4年次：紫

看護学科一学修内容一



1年次

オリエンテーションセミナー
基盤科目（教養科目）
解剖学、生理学
基礎看護学 等
チーム医療福祉論
基礎看護実習Ⅰ
（9月中旬：1週間）

2年次

専門基礎科目（病態生理学、
薬理学等）
領域別看護学概論
小児看護学概論
基礎看護実習Ⅱ
（2月～3月：2週間）
3月末:保健師課程選抜試験

3年次

領域別看護方法論
小児看護方法論Ⅰ・Ⅱ
統合科目（災害看護、看護
管理論、看護倫理）
統合実習（9月）
領域別看護実習（9月末～
3月）

4年次

領域別看護実習（5～7月）
小児看護実習
卒業研究
チーム医療福祉演習
進学・就職試験
2月中旬：国家試験



子どもの成長・発達
子どもを取り巻く社会の動向
日常生活の援助(清潔、食事、衣服、排泄、遊びなど)



子どもの疾患・症状と看護
様々な状況(手術、災害、在宅
など)にある子どもへの看護
家族への支援
他職種との連携



学んだことを実際の場で
体験しながら統合



看護専門科目

少人数制できめ細やかな指導による
シミュレーション教育と臨地実習により、
実践的な看護を主体的に学びます。

小児看護の対象

- 0～18歳未満(児童福祉法)の子ども



- 小児期に発症し、成人移行期～成人に達した患者

- 家族(親、きょうだい、祖父母・・・)



- 子どもを取り巻く人々、環境

小児看護に関連した法律

1982年 WHO「病院における子どもの看護の勧告」

1984年 「NAWCH*の十か条憲章」(*入院児童福祉協会:現Action for Sick Children)

1988年 病院の子ども憲章(EACH CHARTER)

1994年 子どもの権利条約を日本が批准



子どもの権利を守りながら医療や看護を行うことがより強く考えられるようになった

子どもの権利を守る≠わがままを許す
=子どもにとって最善の状態を目指す

子どもの年齢や理解度に応じた説明
子どものストレスを軽減するケア
子どもに合った医療環境の整備

注射や採血、レントゲン検査など 医療処置を受ける子どもへのケアの基本

“プレパレーション(心理的準備)”の3つの要素

Vernon, D. A.T. (1965)

- ①子どもに情報を伝える
- ②情緒的表現を後押しする
- ③病院スタッフとの信頼関係を築く

医療者の関わりによる 子どもの情緒発達への影響

子どもに言うと怖
がらせ不安になる
のでは？

子どもに何も伝えず
処置を行う

子どもが自分で
対処できない
例)泣いて暴れて
押さえつけられる

子どもが自信を無くす
自尊心が下がる
大人への信頼なくす

子どもに必要な情報を
わかりやすく伝える
・手順・方法
・知覚情報
・対処行動
支持的なケアを行う

子どもが準備でき、
対処能力が発揮
できる
例)泣いてもじっと
して処置を受ける

褒める＝認められる
自信をつける
自尊心が高まる

次も頑張ろう！

小児看護ケアモデル

- 自己紹介する
- 検査・処置の流れやイメージをわかりやすく伝える
- 恐怖心を和らげる工夫
- 気をそらす、注意転換法(ディストラクション)
- 家族への配慮
- 子どもの頑張りをほめる・認める
- 処置後の子どもと家族の様子を把握する

子どもの目線で話しかける

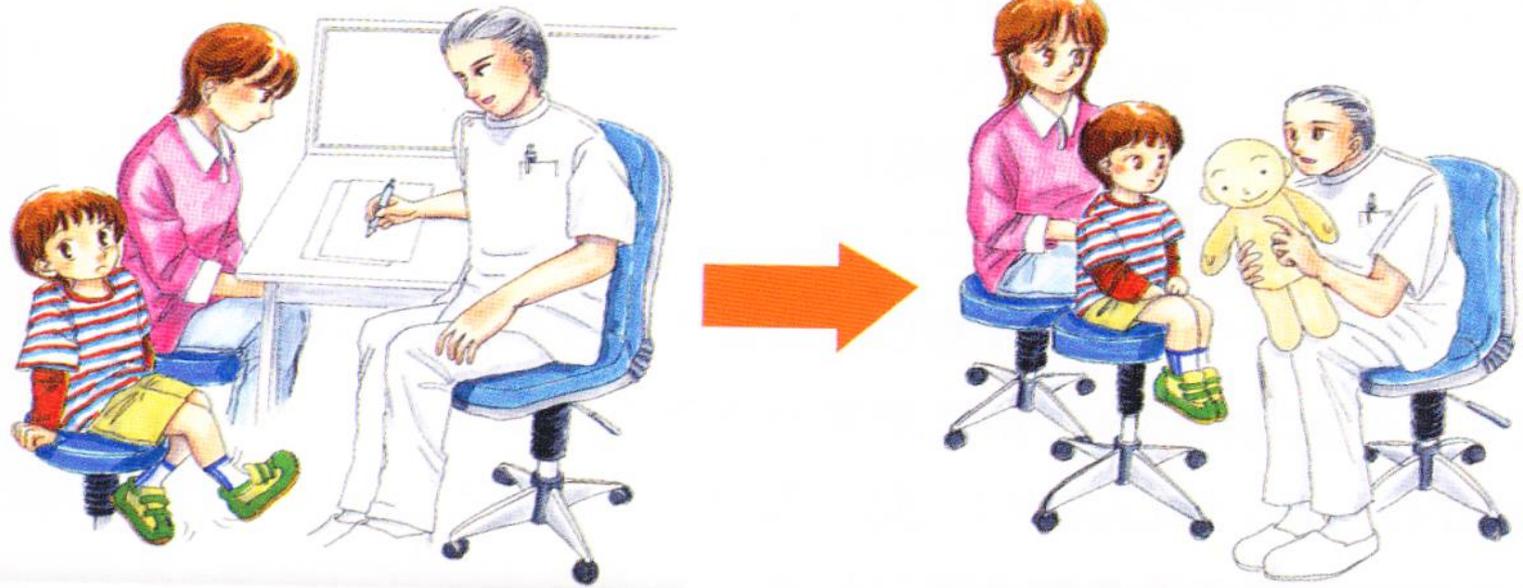
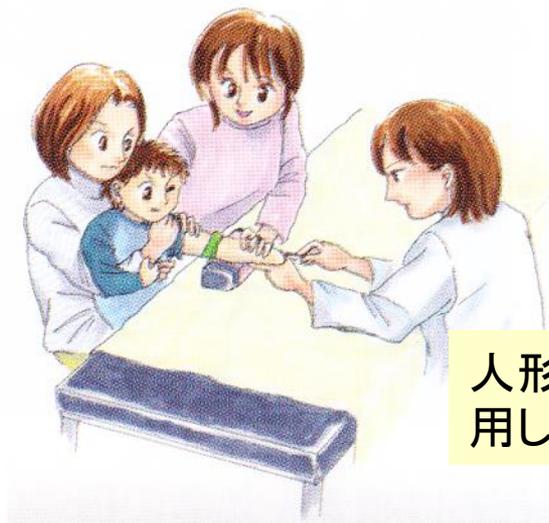
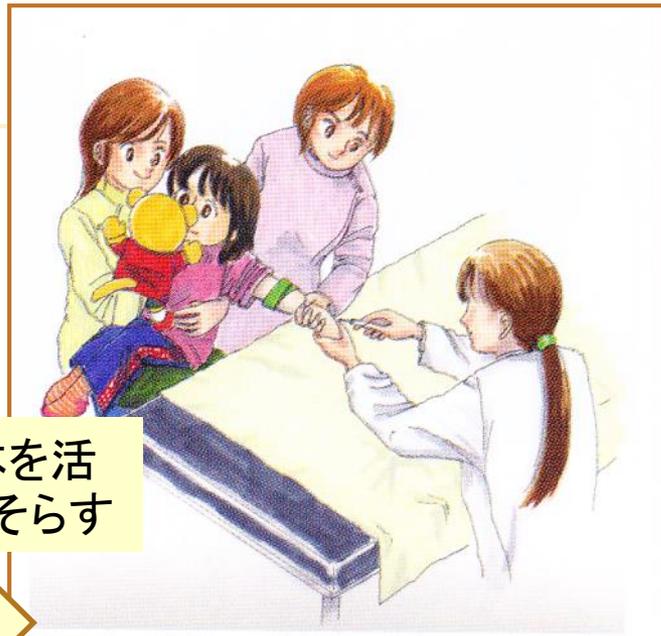


図1・図2 カルテやお母さんやお父さんの顔だけ見て話さず、子どもに向かって人形などを使って子どもにわかるように話しましょう。

子どもの様子を見て 気をそらす・気を紛らわす方法を取り入れる



人形や絵本を活用して気をそらす



指人形などを使って緊張感をほぐす 気をそらす・紛らわせる



ボーネルンド
レインボーメーカー



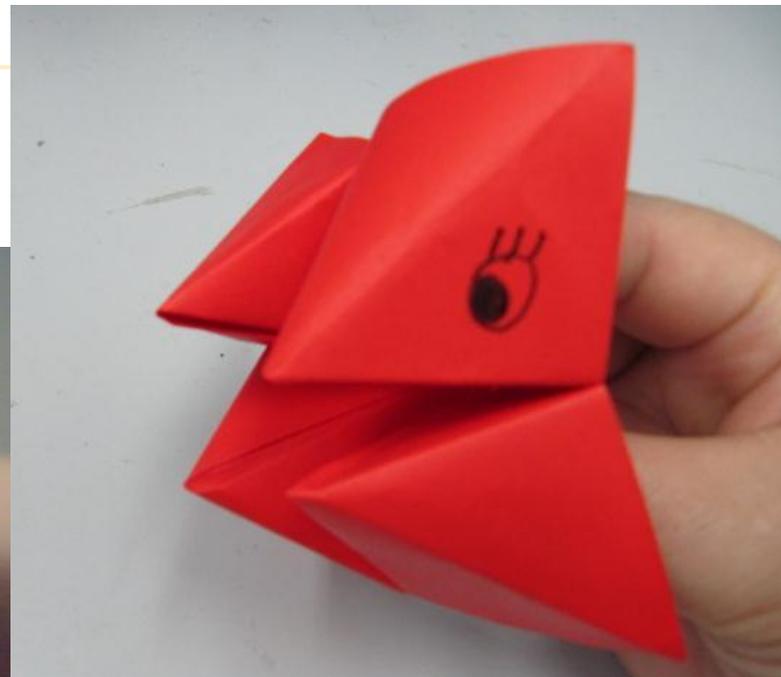
医療器具の装飾

聴診器カバー

血圧計



折り紙を使う



幼児期の子ども； パペットとお友達になる



4歳男児 II度熱傷



鼠径ヘルニア手術を受ける3歳の子どもへの心理的準備

手術室がイメージできるような模型を活用して遊ぶ



遊びの要素を取り入れ工夫する



紙コップを活用して吸入を楽しめるよう工夫する



便器にハンドルを装着して、トイレへ行くのを嫌がる子どもものやる気を引き出す！



がんばり表でやる気を引き出す



がんばったことを認める
'ごほうびグッズ'

子ども目線の看護ケアのポイント

- 子どもの心に寄り添い、思いを共感する
- 子どもの潜在能力を信じる
- 子どもとの対話や反応の意味を考える
- その時の子どもの状況や反応を手がかりに対応する
- 視覚的な道具を用いても用いなくてもわかりやすく伝える
- 子どもが「頑張った」ことを認める





看護体験
進路相談コーナーへ！
3号館3階

